

祝 辞

P T Aを代表し、私からはお祝いと感謝と、そして激励の想いを述べたいと思います。

二〇二一年のはじまりはコロナ禍に加え、思いがけない豪雪からでした。この頃では全国から梅・桜の咲き始めや鶯の初鳴きの便りも届いてきています。そのような季節の移り変わりの中で今日のこの良き日に卒業証書を授与された三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。万感の想いでお祝いの気持ちを贈りたいと思います。今は達成感や満足感、そして喜びの感情でいっぱいではないかと推察しています。

卒業生の保護者の皆様、入学して以来お子様を慈しみ育て励まし、見守ってこられたことに敬意を表します。あわせて、この新潟商業高等学校のご卒業を心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。

校長先生をはじめ卒業生に寄り添ってこられた教職員の皆様、これまでの御指導に厚く御礼申し上げます。また卒業生の今があるのは先生方のご鞭撻の賜と、重ねて感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて私自身がP T Aの役員を三年間勤めたこともあって、卒業生の皆さんとともにこの三年間を振り返ってみたいと思います。

一つには葦原大運動会です。旧グラウンドで初めて拝見したときの感激は今でも忘れません。特に土のう運びが圧巻でした。新潟市陸上競技場で行われたときの応援合戦にも圧倒されました。新グラウンドでの大運動会の開催を見送らざるを得なかったことは無念でなりません。

二つには葦原祭です。新校舎で行われたときの盛況ぶりがとても印象に残っています。体育館ステージでのパフォーマンス、各教室での展示など、さらに中庭での模擬店の数々と美味しさは素晴らしかったの一言です。朱鷺メッセで開催された全国産業フェア新潟大会に参加した時のことも覚えています。新商生があらゆる場面で活躍していたことがとても頼もしく思えました。ただ規模が縮小されて実施された先の葦原祭が拝見できなかったことはやはり無念でした。

三つにはP T A進路座談会（体験報告会と改称）です。卒業生たちの発表ぶりが刺激になりました。これぞ新商生という表現がマツチすると思ったものです。

感動したことはこのほかにもたくさんありますが、どれも新商生らしさが際だっていたと言えます。ただその一つ一つをコロナ禍で見切れなかったことがかえすがえす残念でなりません。

おわりに、コ・ロ・ナの三文字を組み合わせると漢字の「君」になります。そこには社会に求められる心のぬくもりを感じます。つまり黒柳徹子さんが「情熱をもって、熟練した仕事を継続してやっていける人、それをプロフェッショナルという。」との表現とともに、卒業生の皆さん、どうかその道のプロフェッショナルを目指してください。そしてぬくもりのある未来を築かれていくことを切に願っています。心から皆さんのご健闘をお祈りします。

二〇二一年（令和三年）三月二日

P T A会長

今井 勇雄